

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 19 年 4 月 5 日 (2007.4.5)

【公開番号】特開 2000-248075 (P2000-248075A)

【公開日】平成 12 年 9 月 12 日 (2000.9.12)

【出願番号】特願 2000-53525 (P2000-53525)

【国際特許分類】

**C 0 8 J 5/00 (2006.01)**

**C 0 8 K 5/32 (2006.01)**

**C 0 8 K 5/51 (2006.01)**

**C 0 8 L 23/00 (2006.01)**

【F I】

C 0 8 J 5/00 C E S

C 0 8 K 5/32

C 0 8 K 5/51

C 0 8 L 23/00

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 2 月 20 日 (2007.2.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 (a) 有機ホスフィット及びホスホナイトの群からの少なくとも一つの化合物、(b) (i) ヒドロキシルアミン誘導体、及び (ii) アミンオキシド誘導体からなる群から選択された一つ又はそれより多くの化合物、並びに (c) 立体障害アミン安定剤の群からの少なくとも一つの化合物からなる安定剤組み合わせをポリオレフィンに投入し、この混合物を成形型内に充填し、安定化されたポリオレフィンが溶融するように前記成形型をオープン中で 280 以上に加熱し、前記成形型を少なくとも二軸の回りに回転させ、可塑性材料を壁面に広げ、なお回転させながら前記成形型を冷却し、該成形型を開き、次いで得られた中空製品を取り出すことからなるポリオレフィン中空製品の製造方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0025】

成分 (a) が式 (1) , (2) , (5) 及び (6) [式中、n は数 2 であり、そして y は数 1, 2 又は 3 であり、 $A_1$  は炭素原子数 2 ないし 18 のアルキレン基、p - フェニレン基又は p - ビフェニレン基を表わし、E は、y が 1 である場合は、炭素原子数 1 ないし 18 のアルキル基、 $-OR_1$  又は弗素原子を表わし、E は、y が 3 である場合は、 $N(CH_2CH_2O-)_3$  基を表わし、 $R_1$  ,  $R_2$  及び  $R_3$  は互いに独立して、炭素原子数 1 ないし 18 のアルキル基、炭素原子数 7 ないし 9 のフェニルアルキル基、シクロヘキシル基、フェニル基、又は全体で 1 ないし 18 個の炭素原子を有する 1 ないし 3 個のアルキル基により置換された他フェニル基を表わし、 $R_{14}$  は水素原子又は炭素原子数 1 ないし 9 のアルキル基を表わし、 $R_{15}$  は水素原子又はメチル基を表わし、X は直接結合を表わ

し、Yは酸素原子を表わし、Zは直接結合又は  $-C(R_{16})_2-$  基を表わし、そして  $R_{16}$  は炭素原子数1ないし4のアルキル基を表わす)から選択された少なくとも一つの化合物である新規方法が特に重要である。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0026】

成分(a) が式(1) , (2) , (5) 及び(6) [式中、nは数2であり、そしてyは数1又は3であり、 $A_1$  はp-ピフェニレン基を表わし、Eは、yが1である場合は、炭素原子数1ないし18のアルコキシ基又は弗素原子を表わし、Eは、yが3である場合は、 $N(CH_2CH_2O)_3$  基を表わし、 $R_1$  ,  $R_2$  及び $R_3$  は互いに独立して、炭素原子数1ないし18のアルキル基、又は全体で2ないし12個の炭素原子を有する2又は3個のアルキル基により置換された他フェニル基を表わし、 $R_{14}$  はメチル基又は第三ブチル基を表わし、 $R_{15}$  は水素原子を表わし、Xは直接結合を表わし、Yは酸素原子を表わし、Zは直接結合、メチレン基又は  $-C(CH_3)_2-$  基を表わす)から選択された少なくとも一つの化合物である新規方法も同様に重要である。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0044

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0044】

式(III)の好ましい構造は、式中、 $G_1$  及び $G_2$  が独立して、ベンジル基又は置換ベンジル基を表わすものである。 $G_1$  ,  $G_2$  及び $G_3$  の各々が同一の残基を表わすことも可能である。 $G_1$  及び $G_2$  は好ましくは、8ないし26個の炭素原子を有するアルキル基も表わし、そして最も好ましくは、10ないし26個の炭素原子を有するアルキル基を表わし、そして $G_3$  は好ましくは、1ないし22個の炭素原子を有するアルキル基を表わし、そして最も好ましくは、メチル基又は置換メチル基を表わす。更に、好ましいアミノオキシドは、式中、 $G_1$  ,  $G_2$  及び $G_3$  が6ないし36個の炭素原子を有する同一のアルキル基を表わすものを包含する。好ましくは、 $G_1$  ,  $G_2$  及び $G_3$  のための全ての前述の残基が、飽和炭化水素残基又は少なくとも一つの前述の-O-基、-S-基、-SO-基、-CO<sub>2</sub>-基、-CO-基又は-CON-基を含む飽和炭化水素残基である。当業者は、本発明から逸脱することなく、 $G_1$  ,  $G_2$  及び $G_3$  の各々のための他の有用な残基を予想することができるであろう。

式(III)(式中、 $G_1$  及び $G_2$  が独立して、6ないし22個の炭素原子を有する直鎖状又は分岐鎖状アルキル基を表わし、そして $G_3$  が1ないし22個の炭素原子を有する直鎖状又は分岐鎖状アルキル基を表わす。)で表される化合物もまた好ましい。式(III)(式中、 $G_1$  及び $G_2$  が互いに独立して、12ないし22個の炭素原子を有する直鎖状又は分岐鎖状アルキル基を表わし、そして $G_3$  がメチル基を表わす。)で表される化合物が特に興味深い。式(III)(式中、 $G_1$  ,  $G_2$  及び $G_3$  が互いに独立して、12ないし22個の炭素原子を有する直鎖状又は分岐鎖状アルキル基を表わす。)で表される化合物が非常に特に興味深い。特に好ましい成分(ii)は、ジデシルメチルアミノオキシド、トリデシルアミノオキシド、トリドデシルアミノオキシド及びトリヘキサデシルアミノオキシドからなる群から選択される。